

## 令和元年度地域間交流きずな復興事業実施結果

令和元年9月24日（火）

### ■ 成田空港到着

ニュージーランド教員ブレンドン先生とジョー先生が成田空港に無事到着し、国際課トビー交流員が出迎えに行きました。到着時間が夕方だったため、東京に宿泊していただきました。

令和元年9月25日（水）

### ■ コミュタン福島視察

コミュタン福島（福島県環境創造センター）は放射線や環境問題を理解し、環境への回復と創造をする意識を深める施設です。

コミュタン福島スタッフの方が施設を案内してくださってから、環境創造シアターにおいて2つの映像を見ました。そもそも放射線とは何か学び、県内の空間放射線量は世界的に見ても同程度かそれ以下であるなど福島の放射線の状況を説明していただき、ニュージーランドの先生方は「震災だけではなく放射能のような科学的観点から勉強になるため、生徒を連れてくる場所として良いのではないか」とおっしゃっていました。

また、環境創造シアターで放射能の説明や福島の美しい自然についての映像を視聴しました。先生方は360度全方位の映像の迫力に圧巻されており、「とても興味深かった」とお話しされていました。



### ■ いわき市石炭・化石館視察

いわき市石炭・化石館は、いわき市が産炭地として繁栄した当時の資料と、市内で発掘された動植物の化石と世界の貴重な化石資料を併せて展示し、地域経済の振興といわき湯本温泉郷の活性化を図る目的で昭和59年に設立されました。

学芸員の方より、いわき湯本の歴史をはじめ、いわき市は風の流れるため放射線が流れてこず比較的影響を受けなかったことなど震災時のいわき市の状況を解説していただき、そのあと館内を見学させていただきました。いわき市で発見された日本を代表する化石フタバサウルス・スズキイ化石の展示に驚いていたほか、当時の石炭の採掘方法に関心を寄せており、当時の労働環境などについて質問していました。



令和元年9月26日(木)

### ■ 久之浜ふれあい館視察

久之浜ふれあい館は災害時の防災拠点といわき市役所の支所・公民館の町づくり活動拠点を一体化させた施設として建設された施設です。

はじめに、敷地内にある自家消費作物の簡易検査場を見学させていただき、ほとんどの作物について基準値以下であり安全であることをお話しいただきました。

次に、語り部さんに施設内を案内していただき、震災当時の様子や避難生活について実体験を交えてお話しいただきました。また、震災の経験を踏まえて久之浜ふれあい館では1階はガラス張りになっており、また津波が来ても水がガラスを突き破って流れていく構造になっているなど建物の減災機能についても解説していただきました。先生方は真剣に話を聞いており、津波の高さを表す目盛りを見て、「津波の高さは7mだったと言われても実感が湧かなかったが、この建物に来るとよく分かる」とお話ししていました。



### ■ Jヴィレッジ視察

平成23年3月に発生した東日本大震災に伴い、スポーツ施設としては全面閉鎖し、国が管理する原発事故対応拠点となっていました。平成30年夏から部分的に再開。同年9月には新しい全天候型練習場の利用が始まりました。

はじめに、Jヴィレッジの復興への取組みについての説明を受け、先生方は震災直後にどのようにJヴィレッジが活用されていたのか質問していたほか、デッキから見える福島第2原発や、浮体式洋上風力発電に高い関心を寄せていました。その後はフィールドへ行き、天然芝と

人工芝に実際に触り「人工芝のほうが反発性があり、よく跳ねる」と違いを体感されていました。また、全天候型練習場を見学させていただき、練習場内でサッカー体験をさせていただきました。



## ■ ふたば未来学園高校訪問

ふたば未来学園高校は、震災後第一原発事故の影響により双葉郡の高校は県内各地にサテライト校として8校に分散されていました。「双葉郡教育復興ビジョン」の一つである小中一貫校について先行して平成27年4月にふたば未来学園高校が開校され、福島県内で初めてスーパーグローバルハイスクールに認定された高校です。

初めに、英語教員の塩田先生にふたば未来学園の施設を案内していただきました。ニュージーランドの先生方は最先端の設備に感銘を受けていたほか、職員室を出入りする生徒たちを見て「ニュージーランドでは生徒が職員室に行くことはまずない」と驚いており、日本との教育文化の違いについてもお話ししていました。

昼食後は、生徒から先生方に英語で「日本の可愛い文化」についてプレゼンテーションを行っていただきました。ニュージーランドの先生方は英語の発音についてアドバイスをしたほか、「知らないことが沢山あった」とお話しされていました。また、ニュージーランドの先生方による英語の授業も行いました。生徒たちに実際にニュージーランドのお菓子を食べてもらい、お菓子の名前を当てるゲームでは、生徒たちはフェイジョア（果物）など日本人には馴染みのない味に様々な反応を見せており、ニュージーランドを代表するお菓子を食べて大変盛り上がっていました。

授業後は、生徒が運営するカフェを見学しケーキを堪能しながら塩田先生からふたば未来学園について概況説明していただきました。そのあとに事後交流について英語教員の方々と意見を交わし、ふたば未来学園の先生から「Flipgridという教育ツールを使って今後の交流するのはどうか？」など提案があったほか、ニュージーランドの先生方からも「生徒同士がお互いにお互いの言語を教えあえたら良いのではないか」という活発な意見交換がありました。

放課後は演劇部を見学させていただき、生徒からダンスを披露してもらったり発声練習として英語の早口言葉を教えたりして生徒たちと積極的に交流していました。



令和元年9月27日（金）

### ■ 富岡小・中学校訪問

富岡小・中学校は平成23年に発生した東日本大震災による原子力発電所の事故の影響で休校しましたが、同年9月、三春町にある工場跡地を仮設校舎とし再開しました。富岡町の一部避難指示解除に伴い、昨年度4月に富岡小・中学校富岡校が再開されました。

学校訪問では富岡第一中学校設楽校長先生の挨拶を受けた後、山田教頭先生に学校内を案内していただきました。三春校と遠隔で行うライブ授業を見学し、三春校の生徒たちからニュージーランドの世界遺産について質問を受けていました。また、英語の授業見学では、生徒たちから英語で富岡町を紹介してもらい、先生方は「とても上手」とおっしゃっていました。その後、日本文化理解授業を行い、日本文化である書道・折り紙・けん玉を生徒たちからニュージーランドの先生方に教えてもらう時間を設けていただきました。先生方は「子供たちが元気で可愛い」とおっしゃっており、生徒たちとの交流を楽しみながら日本文化に触れることができました。

昼食は生徒たちと一緒に給食をいただき、お昼休みには、ニュージーランドの先生方によるハカダンスのレクチャーを行いました。生徒たちは初めて見るハカダンスに興味を示しており、実際にダンスをするとマオリ語の歌詞や慣れない動作に苦戦しているようでしたが、最後には一体感が生まれ、レクチャー後もマオリ語の歌を口ずさむ生徒が多くみられました。

午後には小学6年生と中学生に向けたニュージーランドの先生方による英語の授業を行いました。ニュージーランドの先生方は事前に自身の生徒たちと撮影した動画を流して学校紹介したほか、ニュージーランド英語についてクイズを出題し、生徒たちは積極的に答えて大変盛り上がっていました。

富岡中学校教員との懇談の時間は、事後交流の方法について話し合いがありました。スカイプやメール交換などを通して交流するほか、ニュージーランドの先生方からは「生徒たちが富岡の生徒たちに英語を教えるのはどうか」などの提案があり、今後の交流の仕方についてお話しをされていました。



令和元年9月27日（金）～9月29日（日）

#### ■ ホームステイ

会津地区で、お二方の先生はそれぞれに分かれホームステイをしました。ブレンドン先生はホストファミリーと一緒にそば打ち体験をしたほか、大内宿へ行き、日本文化体験や会津観光を堪能したようです。「最初はホームステイすることに不安があったが、ホストファミリーが優しくて最初から家族のように接してくれたことが嬉しかった」とおっしゃっていました。

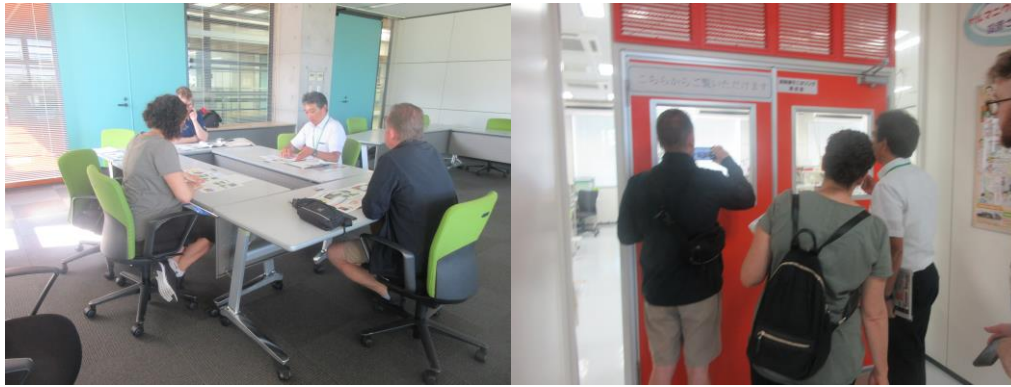
ジョー先生は鶴ヶ城観光やホストファミリーと一緒に裏磐梯ハイキングなどをして過ごし、「ホストファミリーが大変親切で、毎日おいしい手料理をたくさんふるまってくれた」と嬉しそうにお話しされていました。

令和元年9月30日（月）

#### ■ 農業総合センター視察

農業総合センターは、技術開発機能を核に、安全・安心な農業を推進する機能、農協教育機能を兼ね備えた県の農業振興の拠点です。

震災直後の県内農産物に対する放射能の影響や米の全袋検査等その後の取り組み、福島の日本酒で最多であり海外への展開など現在は農業復興へ向かっていることを説明していただきました。その後はモニタリング検査を見学させていただき、食品の放射線量を測定するに当たりミキサーを使用すると重さに差が出てしまい、均一に測定できないため食品の切り分けを人の手で行っていることや検査行程について説明をしていただきました。先生方はゲルマニウム検出器についてなど、熱心に質問をされていました。



### ■ 三春駒絵付け体験（デコ屋敷大黒屋）

三春町にあるデコ屋敷にて、福島県の伝統的な郷土玩具である三春駒の絵付け体験を行いました。梅や手綱など見本どおりに真似することは難しく、「変な模様になった」と話しつつ「福島文化を学びながら美術の体験ができるので面白い」と楽しく体験していました。

また展示してあった起き上りこぼしや赤べこなど福島県の伝統工芸品も見学し、起き上りこぼしは神棚に飾る風習があるなど福島県の文化についても学ぶことができました。



### ■ 薄皮饅頭作り体験（開成柏屋）

「日本三大饅頭」のひとつと言われる福島県の名物・薄皮饅頭作り体験をしました。生地を手の中で伸ばしてあんをくるむ作業は思っていた以上に難しかったようで、生地を破らず大きく作るのに苦戦していましたが、最後には美味しそうな饅頭を作ることが出来ました。

蒸している間は、店内奥にある「萬寿神社」を見学しました、蒸しあがったばかりの温かい饅頭を召し上がり、先生方は「とっても美味しい」とおっしゃっていました。



## ■ 果物（ぶどう）狩り体験（まるせい果樹園）

まるせい果樹園でぶどう狩り（品種：巨峰）を体験しました。初めに佐藤社長から、震災発生当時は風評被害で売り上げが落ちたことや、そこからスタッフで協力し合い、J-GAPを取得したことやお客様に安心して果物が提供できるよう尽力している話を伺いました。その後ぶどう狩りを体験し、ニュージーランドと日本とのぶどう栽培の違いについて語っていたほか、実際に日本のぶどうを食べて「甘くておいしい」とおっしゃっていました。

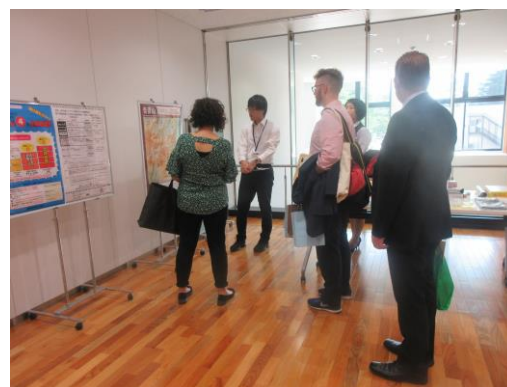
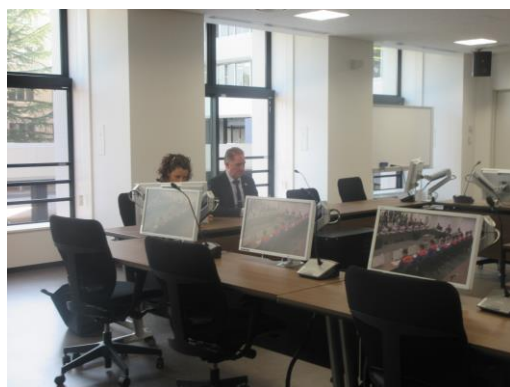


令和元年10月1日（火）

## ■ 危機管理センター見学

災害発生時に迅速に災害対策本部を立ち上げ、初動対応に万全を期すための危機管理拠点として開所した、福島県庁北庁舎にある危機管理センターを見学しました。

震災時に県庁建物自体も被災した経験から危機管理センターが設置された経緯を説明していただき、災害時に実際に使用される本部会議室や倉庫を見学させていただきました。また、災害に備えるために必要な防災キットを見て、ニュージーランドの先生方は実際にどのようなものを準備すれば良いのか積極的に質問していました。



## ■ 副知事表敬（副知事室）

副知事室にて鈴木副知事を表敬訪問しました。自己紹介の後、副知事との懇談を行いました。懇談で、ブレンドン先生は「福島の子供たちは教室を通るだけでもハローと積極的に挨拶をしてくれるなど元気で可愛かった」と話をし、ジョー先生は「自然はきれいで、みんな優しく、

いろいろな人に出会うことができ楽しかったです」と感想を述べました。

その後、友好の証に副知事から先生方に千両ペコを贈呈しました。ブレンドン先生からはオールブラックスのCDを、ジョー先生からはニュージーランドを代表する鳥を描いたハンカチをお土産としてお渡ししました。



## ■ 報告会

国際課國分課長、大島主幹、安田副主査に出席いただき、事業報告会を実施しました。

### 《事業全体の感想・改善点について》

#### ○ジョー先生

改善点が見当たらないほど、とても良かったです。私が面白いと思ったのは、コミユタン、ふたば未来学園、富岡小・中学校です。あまり科学的なことが分からないので、いわき市石炭・化石館は少し難しいと思いましたが、いわき市の歴史や文化を知ることができました。ホームステイ経験も素晴らしかったです。

#### ○ブレンドン先生

同じく改善点が見当たらないです。自分の目で実際に福島は安全であることを確かめることができ良かったです。僕にとって学校訪問が一番印象的で、自分の生徒を連れて来ることができたら絶対に楽しいと思います。富岡小・中学校は1日中滞在できたので満足ですが、ふたば未来学園は半日ほどだったのでもう少し長く滞在したかったです。また、個人的には一人で過ごす時間も好きなので、一人でいる時間があると良いのではないかと思います。

### 《会津でのホームステイについて》

#### ○ジョー先生

私のホストファミリーは経験豊富でとても優しくだったので、ラッキーだったと思います。裏磐梯や鶴ヶ城に行ったり、地元のお祭りへ参加したり、寿司やラーメンを食べたり、着物を着たり、日本舞踊を鑑賞するなど、いろいろな経験ができてどれも素晴らしかったです。初めてのホームステイだったので少し心配でしたが、自分の生徒たちがホームステイをしているので、私もしてみたいと思っていました。今回経験できて良かったです。ホストファミリーは日本のおじいちゃんおばあちゃんのような存在で、できればもっと長く一緒に過ごしたかったです。

#### ○ブレンドン先生



僕も行く前は不安でしたが、最初からホストファミリーが温かく、家族の一員のように迎えてくれて嬉しかったです。ホストファミリーが喜多方で米農家していたのですが、米を刈り取っている風景がニュージーランドにはないので新鮮でした。初めて食べた馬刺しもとても美味しかったです。タイトなスケジュールでしたが、できるだけ多くの場所を見せたいというホストファミリーの気遣いが分かったので苦ではありませんでしたし、むしろ嬉しかったです。「今度は家族を連れてきてください」と言われて、本当に良い経験ができました。

#### 《学校以外の訪問先について》

##### ○ジョー先生

特に、コミュニタンと久之浜ふれあい館が印象に残っています。語り部さんのように個人とお話すると、震災は自分が想像していなかった思いがけないところにまで影響を与えていることが分かって驚きました。避難した方々のうち高齢世代は地元に戻りたいが若い世代は戻りたくないなど新しい問題がでていることを学びました。

##### ○ブレンドン先生

個人的にスポーツが好きなのでJヴィレッジは楽しかったです。福島や日本の文化と震災の両方について学ぶことができたので全ての訪問先が良かったと思います。久之浜ふれあい館など個人の話聞けるのは良かったです。もう少しこちらからも話をする時間があつたら良かったのではないかと思います。

#### 《福島の情報発信について》

##### ○ジョー先生

この事業に参加して、実際に自分で撮った福島の写真や動画を生徒に紹介するほか、SNSにアップすることで多くの人に見てもらえると思います。

##### ○ブレンドン先生

一番は自分の生徒に話すことです。生徒たちには福島に行くことをすでに話しているので、この経験を伝えたいと思います。また同僚の先生たちに福島についてプレゼンテーションをしたいとも考えています。私の妻は日本人ですが、日本人の間にも福島についてミスインフォメーションがあると感じています。日本人の中にも福島を全然理解していない人がいると思うので、福島は安全であることを伝えたいです。

#### 《事後交流について》

##### ○ジョー先生

ふたば未来学園と富岡小・中学校の両校と話しましたが、スカイプ交流やEメール交換ができると思います。個人的には自分の生徒を実際に福島に連れてきたいと考えています。ふたば未来学園の生徒は私の生徒と年が近いので交流しやすいと思いますし、富岡小・中学校の生徒には私の生徒が英語を教えるという方法で交流することもできます。

##### ○ブレンドン先生

ニュージーランドの先生たちのEメールグループがあるので、もしニュージーランドの学校で福島と交流したい学校があれば情報を共有することができます。逆に福島でニュージ

ランドに行きたい学校があれば宣伝することも可能です。ふたば未来学園の先生方とも話しましたが、教育ツールを使って今後交流をできればと思います。

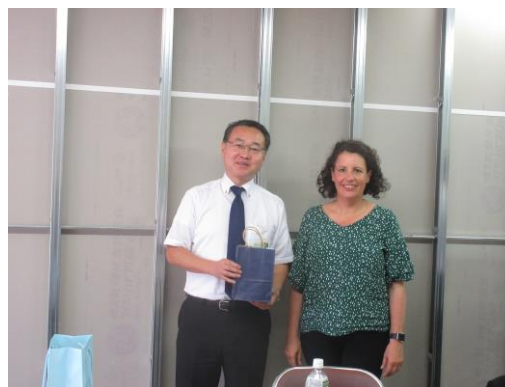
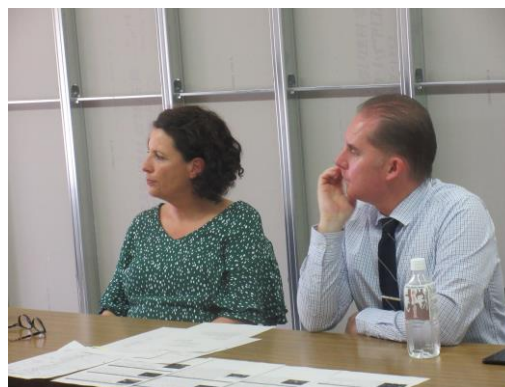
#### 《全体を振り返って感想》

##### ○ジョー先生

私が最も感銘を受けたのは、福島の人々が震災から逃げずに真っすぐに向き合い、前に進んでいることです。クライストチャーチでも地震がありました。同じように前に進んでいるわけではありません。まだまだ復興は進んでいませんし、できるだけ震災のことを忘れたい、なかったことにしたいと思っている人もいますが、福島の考え方のほうが良いのではないかと私は思います。

##### ○ブレンドン先生

ジョー先生と同じように、前向きな考え方が印象に残っています。起き上りこぼしの「自分が倒されても起きないといけない」という話を聞いて、そのような考え方は素晴らしいと思いました。マオリ語では He tangata he tangata という言葉があります。英語では” It is the People, It is the People” となり、「人がいるなら何とかなる」「人を思いやることが大切」という意味です。ニュージーランドでは震災で建物が倒れたら今後の予防策ではなく誰に責任があるのかを調べるほうが大切になっています。そういう考え方を持っていては前に進めないと思います。今回、この事業に参加して勇気もらった気がします。



#### ■ 最後に

地域間交流きずな復興事業は平成8年10月に本県とニュージーランド政府関係者との間で、

地域間交流推進の合意がなされたことに基づき、交流事業の一環として平成10年から22年まで71名のニュージーランド教員を受け入れ地域間の交流を図っていました。震災の影響により中断していましたが平成28年より再開し、平成28年度に2名、平成29年度に2名、平成30年度に2名、そして今年度も2名のニュージーランド教員を受け入れることが出来ました。

視察中、先生方は逐次写真を撮り、「ニュージーランドの生徒や先生たちにも福島県の正しい情報を伝えていきたい。」とおっしゃっていました。この事業に参加し、学校訪問や県内視察を経験し、「福島県での経験を沢山のの人に伝えます。」「素晴らしい経験だった。」「参加できて良かった。」と仰っていただき、ニュージーランドと福島県のきずながより一層深まったと実感し、大変嬉しく感じました。受入に当たり、お世話になった皆様にも深く感謝申し上げます。